

# ふるさとのお話

## 盛んだった霊場巡り



語ってくれた人  
門田徳雄さん  
(54歳)  
(吉永第一小教諭)

明治10年代まで、各地で霊場（札所）めぐりが盛んに行われていました。静岡県東部には、伊豆駿河横道33カ所があります。市内では、17番増川の福聚院、18番滝川の妙善寺、19番入山瀬福泉寺がそうです。

### 鵜無ヶ淵にもあった霊場

伊豆駿河横道33カ所は、1番から33番まで、霊場がはつきりとわかっています。しかし、これとは別に駿河北部を中心とした「観音横道巡礼（33カ所）」がありました。これは、



29カ所しかわかっていません。（沼津民俗資料館絵馬展より）

ところが、鵜無ヶ淵の観音堂の広場の片すみに、小さな長方形の石に

（駿河横道三十三所巡礼の一つであったことを示す石碑）



「横道三十三所観世音菩薩」と記してあります。（写真参照）

このことは、この観音堂が「観音横道巡礼（33カ所）」のひとつであったことを証すものではないでしょうか。地区の人々に聞いても、このことはわかりませんでした。

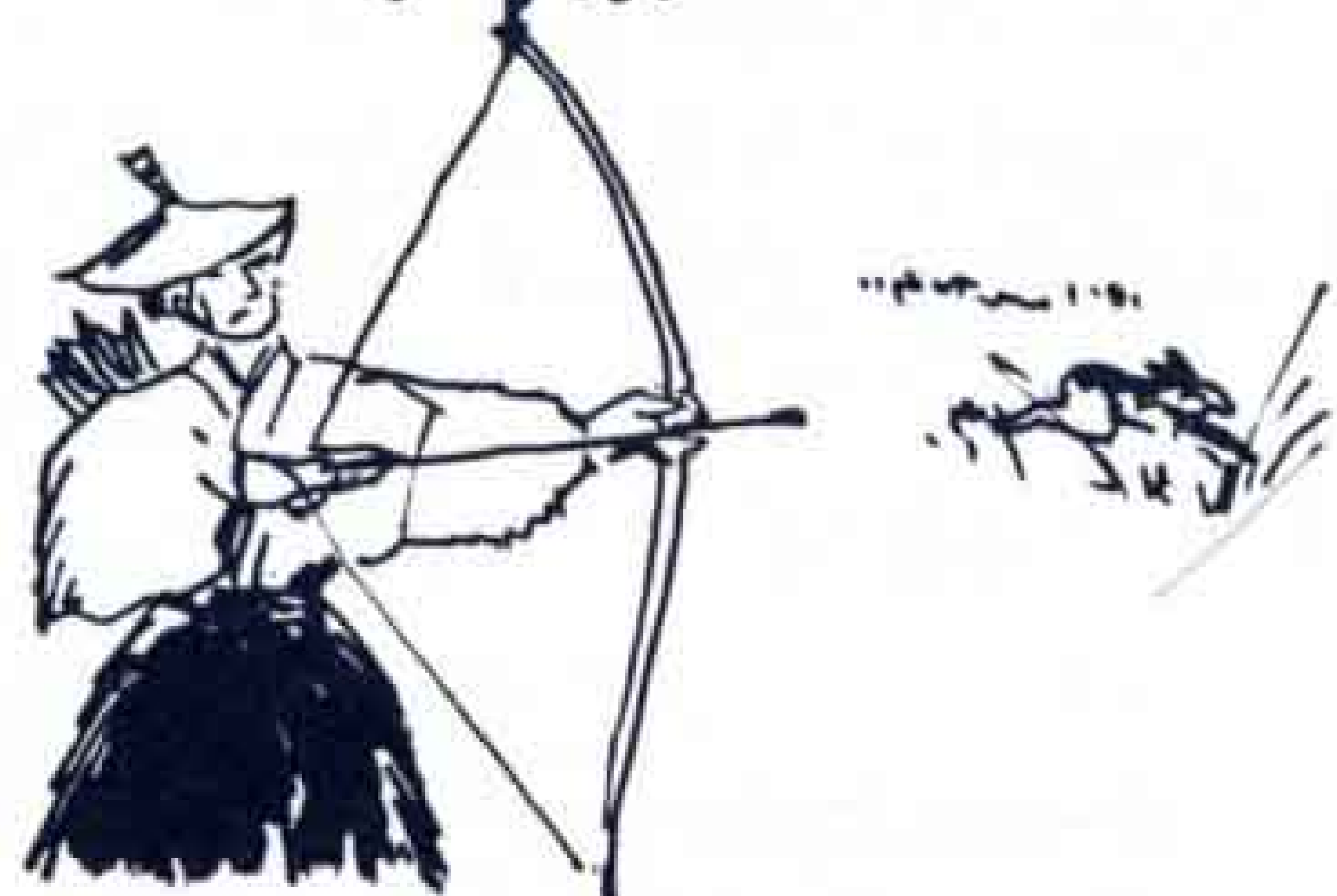
もう一カ所、霊場めぐりが盛んであった事を示すものに赤淵橋（富士岡——中里間）の西、六地藏堂の横に石碑があり、それには「駿河横道順（巡）礼供養塔」と銘記されています。これは、参拝途中で遭難した巡礼のためのものでしょう。

いずれにしても、この2つの石碑があることは、霊場巡りが盛んであったことを示しています。

※この話しは、吉永第一小PTAの学習会「吉永の歴史と習俗」からのものです。

### 地名の由来

今泉



今泉村は頼朝の富士の巻狩のとき勢子を多く出したから勢子村と呼ばれたとされ、のち瀬古村と書かれました。室町末期になると善徳寺村と呼ばれ、寛文2年（1662年）に今泉村と改名されました。理由は佳字に改めるため、この付近に泉が多かったから今泉としたものです。

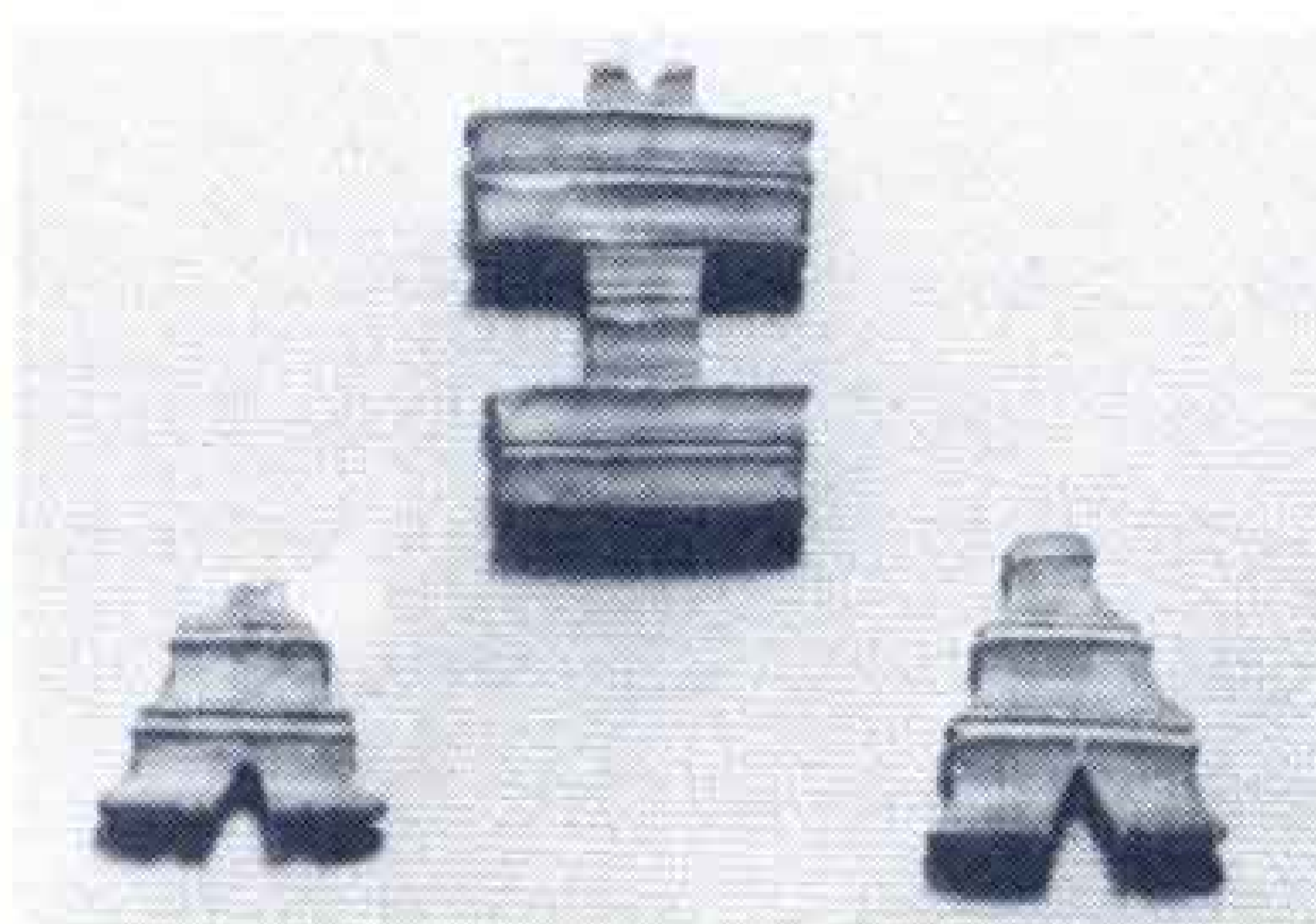
明治2年3月、一色村・神戸村・今宮村を合併しています。

## 郷土の遺跡

### 人々の生活

#### 古墳時代の「マツリゴト」

ことしがたせき  
琴柱形石製品（東坂古墳出土）



東坂古墳が築かれた5世紀頃（今から1,500年ほど前）の各地方の首長は、大王（天皇の古い呼び名）を中心として権力や財力を大きくしていきましました。これにしたがって、「マツリ」や「儀式」を行って政治の方針を決める司祭者としての首長の役割は後退し、形式化するようになりました。

それは、「政治」が文字通り「マツリゴト」であったものが、「マツリ」と「政治」に分けられはじめた時期にあたります。

古い書物によれば、その「マツリ」は、銅製の鏡を中心として、軟かい石で実物より小さく作った仮器と呼ばれる、武器類や玉類・農工具を実物のかわりとして、榊の枝にかけて神霊をしずめ、「五穀豊饒」を祈ったといわれます。

この琴柱形石製品は、形が柱に似ていることからこう呼ばれていますが、本来の形、用途は明らかではありません。一説には、ペンダントにも用いられたといわれますが、静岡県内でも出土例が少ないことから、特別な霊力があつた宝器と考えられていたようです。